

## 学校の教育活動から

## ○楽しかった“フレンドシップフェスタ”

本年度、全校の皆が揃った初めての行事である「フレンドシップフェスタ」を18日(土)に行いました。当日は、あいにくの雨で、校内でのフェスタになりましたが、みんなとても楽しそうに活動していました。初めに、全校のみんなの前で1年生が一人一人立派に自己紹介をしました。その後は先生達が出すクイズやゲームを楽しみ、教室でお弁当やお菓子を食べました。これからも、今回のように、全校のみんなで楽しく活動して、大人数の家族のように一体感が持てるといいですね。



## 感じたことから

## ○“孤独”を感じさせないために

1年生の入学当初から、1年生の教室には、6年生ばかりでなく、たくさんの上級生で溢れかえっています。『可愛いからお世話をしてかかわりたい』という思いと共に『1年生の不安な気持ちを少しでも和らげてあげたい』という思いが膨らんでのことと思います。1年生の子ども達は、こうした上級生のお兄さんやお姉さんのおかげで、入学して間もないにもかかわらず、学校に馴染むことができているようです。1年生のある保護者の方からは「上級生のお兄さんお姉さんが、とてもお優しいので、学校に行くのが楽しくなっているようです。」とお伺いしました。1年生の皆さんが寂しさを感じることなく、学校生活を送っているのなら嬉しい限りです。



哲学者の三木清さんの言葉の中に「“孤独”は山になく、街にある。一人の人間にあるのではなく、大勢の人間の『間』にある」とあります。

山に独りでいるのも寂しいことですが、たくさんの人が集まっている街の中にながら、会話をする相手が見当たらず、周囲が楽しそうにしている姿が心に刺さると、一人であることの孤独感は、いっそう大きくなってしまふことでしょう。

不登校という在り方を選択する子ども達の中には、この孤独感から解放されたいという思いを抱く場合もあるように思います。学級や学校という人の『間』にいるよりは、自分の家という友だちのいない空間の中での“孤独”の方が気持ちは和らぐのでしょうか。

これも一つの生き方として認めることが大切でしょうけれど、社会的存在としての人間において、そのかかわり合いの中で感じる喜びや楽しさも、できることなら味わってほしいものです。

先に述べた上級生の1年生へのかかわりは、その意味からも「人間の『間』にある“孤独”」を1年生の心から払拭させてくれるものと言えるでしょう。どの子もそうだと思いますが、新しい環境の中に入るときは、不安がいっぱい心の中に広がっていることと思います。そうした時に、周りはどんどん仲良しができてきて、自分にはお話しする相手がなく一人になったとしたら、“孤独”な思いでいたたまれなくなることでしょう。上級生のかかわりは、その不安を和らげてくれるものに他なりません。

このことをもとに、1年生に限らず、それぞれの学級の中で、周囲を注意深く見渡してみると、ひょっとして「街(学校・学級)の中での“孤独”を感じているのではないかと思われる友達がいるかもしれません。自分にとって、一緒にいる友達、会話できる友達がいると、そうした“孤独”を感じている友達に目が向かなくなってしまいがちです。注意深く周りを見るとき、そうした友達を見つけたら、“孤独”を感じさせないためにどうすればよいか、よく考えて行動できる人になれたら素晴らしいと思います。